

●西郷軍が苦難の脱出

北川町は大分県と境を接する。傾山の大大分県側ふもとから流れ出る北川は延岡市の延岡港まで、本県内の延長は約三十二^キである。

昔から清流とアユの里として知られてきたが、一九九七（平成九）年九月十六日の台風19号で大洪水に襲われた。浸水面積八百七十八^ヘ、浸水家屋千五百九十五戸、流域はすべて被災地となった。

災害の後、北川は国の「河川激甚災害対策特別緊急事業」で、五年間に総額二百九億四千万円が投資された。また同年の「河川法」改正で、環境に配慮した治水事業が進められるようになり、北川はその全国初の河川となった。

改正河川法には従来の防壁型の堤防ばかりに頼らず、新しい工夫が取り入れられている。これにより北川には河川敷を広く残す遊水池の設定、河畔林の育成、水辺動植物の保護、地形に

合わせて堤防の切れ目を巧みに配置した「霞堤」の構築など、環境を生かしながら安全性を確保するさまざまな工夫が施された。

北川はホテルが多く生息する川としても知られる。河川の再生に合わせて、町をあげてホテルの里づくりに取り組み、「ホテルの館」も開設されている。

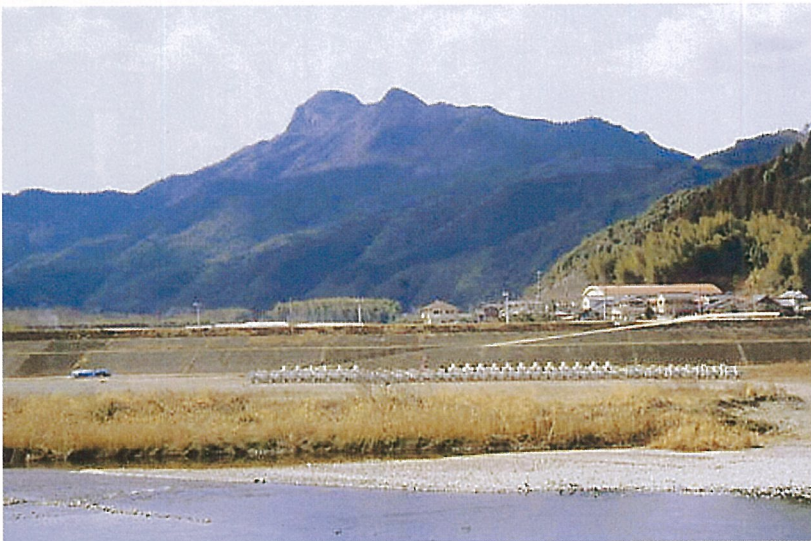
北川の名が広く知られたのは、一八七七（明治十）年の西南戦争のときである。八月十四日、官軍に追い詰められた西郷軍は北川沿いの俵野に立てこもった。官軍の包囲網は固く、戦いはここで終結すると思われた。しかし、西郷軍の主力六百は十八日未明、背後の可愛（えの）岳（七二八^{トシ}）を越えて脱出した。

司馬遼太郎の名作「翔ぶが如く」はこの敗走について、「希望のあるなしにかかわらず、戦って死ぬなら故郷の山で死にたいという思いが、

本能かあるいはそれより深いところであろうでいたかと思える」と書いている。西郷軍はこの後苦難の末九月一日、鹿児島島の城山に到達、西南戦争は終結した。

NHKの大河ドラマ「翔ぶが如く」が放映された一九九〇（平成二）年、可愛岳に登山道と遊歩道が整備され、俵野には西郷資料館が開設された。その近く、国道10号沿いに九六（同八）年、道の駅「北川はゆま」が開店した。「はゆま」は古語で駅を意味する。奈良時代ここに道の駅があったという。このレストランでは、地元の新鮮な食材を使った料理が人気。北川町は今、歴史を大切にしながら、新しい町づくりが進んでいる。

甲斐亮典



可愛岳。今も西郷物語が地区民によって伝えられる